

E-Mail: taniyama-cc@lagoon.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tvcc/>

発行人: 頭島光神父 編集委員: 上原敏子、上釜照美、徳永珠美

『新しいミサ式次第』

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス頭島神父

いよいよ今月、待降節第一主日から新しい式次第でのミサが捧げられます。これまで親しんできた典礼の言葉使いが大きく変わります。新しいミサ典文に慣れるには、さほど時間は要しないでしょう。むしろ、ミサ聖祭について改めて考え直す良い機会になったかと思います。大切なことは、いかに積極的に、より深くミサに参加できるかにあります。ミサでの司式や会衆の受け答えが変わっても、聖体祭儀であるその本質は変わりません。最後の晩餐でイエス様がパンと葡萄酒を用いて御体と御血に変えて下さり、聖なるいけにえの記念として残して下さったものだからです。ミサに参加するたびに私たちは、神ご自身によって罪の闇から贖い出され新たにされ、聖なるものとなる、まさに恵みの時なのです。

◆ 祭壇と食卓

ミサ典礼は聖堂に集められた民衆の行為でありつつ、その本質はキリストの行為を具現化するものです。ミサの場に神なる御父が現存するからこそ、会衆もそこに集まるのです。会衆なしにミサ聖祭はありません。またミサはキリストが私たちを呼び集め、世に派遣する祭りです。ですから、私たちがミサに参加するのは神のこぼれを聞き、これを行うためであり、いのちの糧である御体をいただくことで霊的に生き返るためです。このように、ミサに参加することで、私たちは神の言葉を生き、聖体拝領によって養われるのです。その意味で、祭壇は単なる供え物の場でなく、みことばをいただく食卓でもあります。



れて来るこれらの霊的賜物は、この世の何ものにも代えがたいものであり、福音の喜びに匹敵するものです。ミサに与る、参加する、そのことだけで、充分に人の心は優しい愛の人に変えられるのであり、新しく生き直す力となっているので

す。

◆ 信仰の源

典礼は生活の源泉であり、教会活動の頂点、信仰の賜物です。私たちはみな洗礼を受けたその時から、神の子とされただけでなく、聖なるいけにえである主の晩餐に与る恵みを無償でいただく者とされたのです。従って、ミサに参加することは、ただ単に義務や権利といった人間的、社会的な価値観とは全く異なるものです。私たちは神から救われたという信仰によって参加しているのであって、恵の賜物以外の何物でもありません。従って、この天からの無償の恵みを無駄にすることなく、協力して典礼に近づくことが必要です。ミサにおいて自らを神と一致させ、人と心合わせる事が求められるのです。

◆ 内的沈黙

聖堂に集まった信者は、キリストの言葉とその愛の御業によって変えられます。私たち信者は、一つ一つの典礼行為を通して神を礼拝するとともに、これらの行為を通してキリストの現存を証ししていくのです。そこで大切にされる事柄が内的な沈黙です。現代社会は情報の渦です。私たちの心の中も様々な思いに翻弄され乱されます。聖堂に入ったら心静めることです。荒れ地のままの私ですが、静かに神に向かって祈る心にしていただきましょう。ミサの中で、この内的沈黙を保つことはとても大切なことです。



◆ キリストの現存

典礼の行われる処、そこに主は必ず生きておられます。つまり「ミサでのいけにえのしるしこそ、主ご自身であり、十字架上で命をお捧げになった同じキリストが、司祭の手を通して、聖体のいけにえの内に現存しておられる」(典礼憲章7参照)のです。誰かが司祭の手を通して洗礼を受けるとき、それはキリストがお授けになるのであり、聖書が教会で読まれるとき、それはキリストご自身が語られているのです。

◆ 聖なる賜物

ミサに参加することで得られる喜びは、この世のものとは比べられません。それは聖なる賜物だからです。この世間的なものではなく、神からの霊的な糧だからです。神から与えら



11月の教会暦より

10日 聖レオ1世教皇教会博士 (記念日)

在位 440年～461年



レオは、イタリア、トスカーナに生まれ、若いころから聖職者として重要な職務につき、教皇に選出された。当時、教会の内外にはいろいろな災難が起きた。その1つにコンスタンチノーブルの修道院長エウティケが、431年のエフェソ公会議で異端とされたネストリウス派の「イエスは人間であって、神ではない」という説を排斥するあまりに、「キリストは真の神であって、真の人間ではない」という極端な説をとねえ始めたことがあった。

レオ1世は、これらの異説をすべて排斥し、451年のカルケドンの公会議で、信仰宣言を読み「キリストは真の人間であり、真の神である」と述べた。このとき、司教たちは感動し、「これこそ使徒たちの信仰である。ペトロがレオ教皇の口を借りて語った」と言ったと伝えられている。また、民族移動でフン族、ヴァンダル族が侵入してきたときには、それぞれの王と交渉してローマを危機から救うことに努めた。

レオ1世のとき、聖ペトロの後継者として初めて「教皇」(Papa)という称号が用いられた。そしてローマ司教の他の教会に対する「首位権」を主張し、教皇の地位と権能を確立させた。

彼は、96の説教集や多くの書簡集を残した。後世、大教皇という称号を与えられ、「大レオ」と呼ばれる。

—女子パウロ会聖人カレンダーより—

2日 死者の日



諸聖人の祭日(11月1日)の翌日にすべての死者を記念する習慣は、998年にクリュニー修道院のオディロンによって始められ、クリュニーの修道士たちの影響によって11世紀には広く行われるようになりました。ローマ教会には1311年の暦に初めて記されていますが、それ以前からローマでも死者の日の記念が行われていたと思われます。『毎日の読書』より わたしたちは生者と死者を問わず万人との連帯関係にあり、その連帯関係は聖徒の交わりを土台としています。「聖徒の交わり」とは、「聖なるものの分かち合い」と「聖なる人々の交わり」という意味を持ち、聖徒たちの交わりが、まさに教会なのです。すべての罪はこの交わりを損なうものです。教会はキリスト教の初期の時代から、死者の記念を深い敬愛の心をもって尊び、死者のための祈願をもささげてきました。死者のためのわたしたちの祈りは、死者を助けるだけでなく、死者がわたしたちのために執り成すのを有効にすることができるのです。『カトリック教会のカテキズム』946、953、958を参照

28日 聖カタリナ・ラブレ (記念日)

1806年～1876年

カタリナは、フランス、ブルゴーニュの裕福な農家に17人兄弟の9番目の子として生まれた。9歳のときに母と死別し、その後は彼女が家事を手伝った。父の反対があったが、1830年に愛徳姉妹会に入り、パリの修道院に派遣され、そこで祈りと修業に励んだ。ある晩祈っていると聖母マリアが現われ、彼女の使命について語った。2度目のマリア出現の際に、カタリナは「不思議なメダイ」(聖母マリアが刻まれたメダル)を作り、その信心を広めるようにと言われた。彼女の体験した2つの示幻は、2年後の1836年に、パリ大司教区の調査委員会によって認められた。メダイは、パリの大司教の奨励で製造されるようになり、メダイの普及に伴って病気の全快や回心など多くの奇跡が世界の至るところで起こったといわれる。



彼女の遺体は、パリのバック街の修道会本部に安置されている。現在もその不思議なメダイは、多くの人びとから大切にされ、親しまれている。

—女子パウロ会聖人カレンダーより—



十月一日(土) 炎天下の中で、汗を流して草取りを頑張ってください。皆様に感謝!!

写真・梅木千夏子さん提供



お疲れ様でした。

お知らせ

サンパウロ会 書籍・グッズ 出張販売
12月18日(日) 9時ミサ前後 ロビーにて



—訃報—

8月25日 マリア・モニカ 小瀬戸昭子様(93歳)が帰天されました。永遠の安息の中で憩われますように。



2022年11月<ミサ典礼>の朗読及び先唱奉仕のお願い

主の平和

11月に入りました。死者の月ですが、今月末、最後の日曜日からいよいよ新しいミサ式次第での感謝の祭儀が始まります。巻頭言でも書きましたように、典礼こそ信仰のカテケージス、祈りの最高峰、教会共同体の中心的行為です。ミサ典礼無くして、私たち信者の信仰表現の場所はないからです。キリスト信仰を証する行動的参加の現場であるミサ典礼をより豊かに、またより美しく捧げ、神を賛美し感謝することができますように祈りましょう。

さて、このミサ典礼の新たな始まりに際し、これまでのコロナウィルス感染症対策も大幅に軽減の方向へと舵を切りたいと思います。ようやく一時の勢いも納まった感もありますが、第八波が来るとの報道もあります。が、「王たるキリスト」の主日から典礼の新しいミサ曲も練習し、歌っていきたいと思います。これに合わせて聖堂への入場制限をなくし、他教会の方々の来場も良しとします。さらに、感染症拡大防止対策として、続けてきた署名及びカード記入も終わります。ただ手指消毒と検温及びマスク着用だけを遵守していきましょう。

◆受付での検温と手指消毒及びマスク着用の遵守だけ、これまで通りのご協力をお願いいたします。

◆9時ミサの聖堂入場制限はいたしません。なお、泣部屋は子ども連れのご家族に割り当てられます。

◆天窓を開けての換気はこれまで通り行い、空調は天候状況に合わせて調整していきます。

◆聖体拝領は、これまで通り、1列に並び、ゆっくりと前にお進みください。

以下、11月のミサ典礼の朗読先唱の奉仕は、以下の通りです。よろしくお願いいたします。

◇11月6日 年間第32主日 午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	●1班
◇11月13日 年間第33主日 午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	●2/3班
◇11月20日 王であるキリストの祭日 午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	●4班
◇11月27日 待降節第1主日 午前9時ミサ～ライブ配信～先唱及び朗読奉仕	●5/11班

★いよいよ新しいミサ典礼が始まります。ミサ式次第「ともにささげるミサ」(会衆用)の読み合わせ会も回を重ねて、10月は6日と13日の2回、勉強会ができました。27日は典礼委員会となりますので、次の勉強会は、11月の10日と24日の二回行います。いずれも木曜日ですが、同じく午後6時半から聖堂で行います。中身は新しいミサ曲の練習をします。朗読及び典礼奉仕にあたる人も是非参加してください。各動きにも注意、確認していきたいと思います。時間は一時間程度です。お忙しい中ではありますが、できるだけ時間の都合をつけてご参加下されば幸いです。

主任司祭 トマス頭島光

2022年10月2日(日)
～世界の平和の為の祈りの行進が行われた。(毎月第1日曜日)～

住職さんは、「宗教は違っても、平和を願って一緒に祈り、行動する事が大事。北朝鮮は、ミサイルを飛ばし、ウクライナの戦争もまだ終わっていません。日本は、長崎と広島に原爆を落とされた唯一の被爆国。核兵器のない世界、戦争反対をこれからも訴えていきたい」と熱弁を振るわれた。次回から郡山元司教様の提案で、カトリック信者は、ロザリオを手に持って祈りながら歩く事になった。どなたでも参加できますよ。
(上原)



写真提供・田代咬子さん



令和4年(2022年)谷山教会11月の予定と祝日表(11月01日～11月30日)

日 時			典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会
1日	火	祭日 6:30	諸聖人 朝ミサ			
2日	水	19:00	召命ミサ/死者の日			
3日	木	6:30 10:00～	朝ミサ やすらぎドーム命日祭/その後、運営に関する説明会			文化の日
4日	金	記念日 19:00	聖カロロ・ポロメオ司教 初金ミサ			
5日	土	19:00	年間第32主日のミサ/聖母の土曜日		①	教会
6日	日	6:30&9:00	年間第32主日 *ベトナム人共同体ミサ(アン神父)14:00～ *教会役員会15:00～		①	
7日	月	6:30	朝ミサ			立冬
8日	火	6:30	朝ミサ			
9日	水	祝日 19:00	ラテラン教会の献堂 召命ミサ			<求道者勉強会シーズンVII> 5
10日	木	記念日 6:30	聖レオ一世教皇教会博士 朝ミサ			*新典礼ミサ曲練習18:30～
11日	金	記念日 6:30	聖マルチノ(ツール)司教 朝ミサ			
12日	土	記念日 19:00	聖ヨサファト司教殉教者 年間第33主日のミサ		②③	教会
13日	日	6:30&9:00	年間第33主日 *貧しい人のための世界祈願日		②③	
14日	月	6:30	朝ミサ			
15日	火		朝ミサなし			
16日	水		召命ミサなし			
17日	木	記念日	聖エリザベト(ハンガリー)修道女 朝ミサなし			
18日	金	6:30	朝ミサ			
19日	土	19:00	年間第34主日のミサ			*ミサ後新典礼開催前の留意事項説明(19日と20日) 会衆用ミサ式次第持参
20日	日	祭日 6:30&9:00	王であるキリスト 年間第34主日/司牧評議会/コミチウム14:00～		④	*世界青年の日 司牧評議会設置
21日	月	記念日 6:30	聖マリアの奉献 朝ミサ			
22日	火	記念日 6:30	聖セシリアおとめ殉教者 朝ミサ			
23日	水	19:00	召命ミサ			<求道者勉強会シーズンVII> 6 勤労感謝の日
24日	木	記念日 9:30	聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者 朝ミサ			*新典礼ミサ曲練習18:30～
25日	金	6:30	朝ミサ			
26日	土	19:00	待降節第1主日のミサ		⑤⑪	*新典礼によるミサ執行 教会
27日	日	6:30&9:00	待降節第1主日		⑤⑪	*新典礼によるミサ執行
28日	月	6:30	朝ミサ			
29日	火	6:30	朝ミサ			
30日	水	祝日 19:00	聖アンデレ使徒 召命ミサ			

今月の行事当番班は5・11班です。

東主任出張祭
レデンツール会日本準管区総会のため、主任司祭は留守。15,16,17日のミサはありません。

ロザリオの祈り	毎週火曜日 10:00～	1, 8, 15, 22, 29日
レジオ・マリエ	毎週水曜日 14:00～	2, 9, 16, 23, 30日
聖書と教理-Ⅱ	毎週金曜日 10:00～12:00	4, 11, 18, 25, 日

*ペンテコステ編集部は皆様からの記事を募集しております。(日頃思っていること、読書感想、写真等、何でも結構です。)